

ITを活用した親役割の促進と産後うつ予防

看護

木村 奈緒美 Naomi Kimura

母性看護学／講師

- **キーワード** 親役割の促進、産後うつ予防、心理的介入
- **対象疾患** 妊婦および母親
- **研究フェーズ** 応用

シーズ概要

周産期の精神的健康問題は増加傾向にあり、これらが原因で起こる妊婦や母親の自死、無理心中、子どもへの虐待は社会問題となっている。母親の精神的健康を良好に保つことは、子どもの成長・発育にも切実な問題である。この問題に対して、妊娠期～育児期の母親に対して、ITを活用した心理的介入を構築する。これにより、親役割の促進と精神的健康を維持することが期待できる。

研究成果の応用可能性

母親の個人の資質に働きかけ、個人の内面の強化となる介入方法を研究しているため、周産期全体を通した母親の精神的健康の維持向上だけでなく親役割の向上も含め支援することができると考えている。また、精神疾患を持った妊産婦にも応用が可能であると考えている。

Appeal Point

アピールポイント

周産期から育児期全般を支援する方法を確立していきたいと思います。